

# 医療健康

市民にとって命の綱である国民健康保険について

細谷 正議員(共産) ①国民健康保険について市の認識は。

②本年度、低所得者対策に関する保険者支援制度の拡充が行われているが、対応はどうか。

市長 ①国民皆保険を支える重要な基盤であり、市民が安心して医療を受けることができる大

切な仕組みと認識している。②本年度の国民健康保険事業特別会計予算で保険者支援制度の拡充を繰入金に充てている。

(仮称)小平市健康増進計画の目指すべきものは何か

津本裕子議員(公明) ①計画策定調整会議はどのような役割を果たすのか。

②市民の健康増進に対する意識の向上をどのように計画実施や事業実施につなげていくのか。

市長 ①健康増進に係る課の課長で構成され、全庁的な連携を図る役割を担っている。

②実施中の事業の評価や市民意識調査の結果等を踏まえ、今後の計画策定において重点的に取り組む目標等を検討していく。

生涯を通じての歯と口の健康づくりについて

中江みわ議員(フオ) ①歯科健診以外の成人や高齢者の歯と口の健康についての取り組みは。

②小・中学校で給食後の歯磨き指導は行われているか。

市長 ①歯科医療連携推進事業において、病気や障害のある人等がかかりつけの歯科医を探すことが困難な場合に歯科医を紹介する等の取り組みをしている。

教育長 ②小学校、中学校各校の特別支援学級で行っている。歯と口の健康については、保健

体育の授業等で取り組んでいる。子どもから高齢者までその人らしい健康づくりができるまちに

さとう悦子議員(生ネ) ①介護予防の視点も含め、高齢者が生きがいなどを持つきっかけづくりとして行っている事業は。

②健康増進計画策定に向けた庁内の連携体制はどうか。

市長 ①介護予防見守りボランティアや介護予防教室等がある。地域包括ケアシステムの構築に

当たり、そうした活動が引き続き行われるよう取り組んでいく。

②健康増進に係る庁内15課の課長からなる策定調整会議等を設置し、連携を図っている。

こころの病気を知ってこころの健康を守る

平野ひろみ議員(生ネ) 小・中学校の保健の授業等で心の病や精神疾患を学ぶ時間はあるか。

また、教員研修に精神疾患の正しい知識を得る講座はあるか。

教育長 具体的な心の病や精神疾患についての学習ではないが、保健体育の授業等で、不安や悩みへの対処等を指導している。

教員の研修については、専門家を講師とし、精神疾患にかかわる内容を含めたメンタルヘルス研修会等を実施している。

(仮称)こだいらタバコルールを策定し快適な環境づくりを

山岸真知子議員(公明) 市内の全ての人を守るべきならばこのルールを具体的に示し、これま

で以上に積極的な普及啓発に取り組むべきと考えるが、ルール策定の検討状況は。

市長 現在、マナー意識の向上を図るため、市内6駅で周辺自治会等の協力をもらいながら喫

煙マナーアップキャンペーンを実施している。キャンペーンの協力者と定期的な連絡会を開催

している中で、その中でさまざまな意見を聞いていく。

骨髄バンクの提供ドナーに対する助成制度を導入せよ

小林洋子議員(フオ) ①市で行っている骨髄バンクの啓発活動にはどのようなものがあるか。

②提供ドナーへの助成制度を導入すべきと考えるが、見解は。

市長 ①ポスターやドナー登録のしおりを健康センター等に掲示、配置するほか市ホームページから日本骨髄バンクのホームページへのリンクを張っている。

②国との適切な役割分担を踏まえ、先行自治体の実施状況等を見据えながら検討していく。

# 産業暮らし

訪れたい、住み続けたいまちにするために

小野高一議員(政和) ①市の魅力を市外に伝えるために小平市でしかできない、定着化を図れるイベントが必要ではないか。

②訪れたい町にするため、緑の自然環境をメインとした観光資源創出を図るべきではないか。

市長 ①今後も定着化を図れるような市の特色を活用したイベントや市外の人が訪れたいくなる情報発信の方策を検討していく。

②小平グリーンロードを生かした観光資源の創出により、市外の人にも市を訪れてもらえるよう検討していく。

花小金井駅周辺の今後について

川里春治議員(政和) ①地元商店街の活性化を図るための方策をどのように考えているか。

②花小金井駅北側にある用水路を緑地として整備できないか。

市長 ①イベントなどに対し支援を行うとともに、市内店舗改修等補助事業等を実施しながら商店街の活性化に努めていく。

②現段階では対象となる野中用水の親水整備の予定はないが、用水路の敷地を活用した緑化については今後研究を進めていく。

自治会のあり方と今後について

川里春治議員(政和) ①自治会の加入率向上のために市ができる取り組みは何か。

②自治会が行う各種行事の参加率を上げるために市ができることはあるか。

市長 ①毎年、自治会懇談会を実施し、意見交換等を行っている。さらに、自治会パンフレットの活用や転入者への自治会案内チラシの配付等を行っている。

②地域では自治会のほか、さまざまな市民団体が活動しており、団体間の地域活動をつなげることが必要と考えている。

プリズトン東京工場の再構築は市にどのような影響があるか

佐藤 充議員(共産) ①株式会社プリズトン東京工場の再構築により、周辺の商店・商店街へどのような影響があるか。

②今後の市の対応は。

市長 ①再構築に伴う従業員数の変化は、現時点においては、周辺の商店や商店街に大きな影響を与える規模ではないものと考えている。

②株式会社プリズトンとは、今後も密接に連絡をとり、引き続き情報収集に努めていく。

もっと魅力ある小平市を知ってもらうための情報発信を

松岡 篤議員(政和) 市の情報を市内外に発信するために、市にゆかりのある著名人を集めた仮称小平市応援団の創設ができないか。また、市のPRのためにCMをつくることはどうか。

市長 観光まちづくり大使等の活動を通じ、市ゆかりの人たちに応援団として協力してもらえよう働きかけていく。CM制作は、市の魅力を広くアピールする有効な手段と認識している。さまざまな広報媒体による情報発信について研究していく。

(仮称)小平プチグルメで地産地消のまちづくりを

永田政弘議員(政和) ①小平の産物を加工し小平逸品こだわりの料理を提供することなどを盛り込んだ、(仮称)小平プチグ

ルメ構想をどう考えるか。

②構想実現のため何が必要か。

市長 ①地産地消の推進を図るとともに、個店の魅力を高めチェーン店との差別化を図る点で有効な手法と考える。

②農業と商業の連携による地場産品の安定供給や意欲ある店舗の発掘と支援等により定着させることが必要と考える。

# 子ども女性

認証保育所と幼稚園の今後について

川里春治議員(政和) ①認証保育所の厳しい経営状況を市はどう考えているか。

②今後の幼稚園の入園について、市の見解は。

市長 ①厳しい状況は認識している。近隣市等の動向も注視しながら、どのような対策がとれるか研究していく。

②既存の幼稚園に3歳未満児の保育を担ってもらい、3歳からは幼稚園につなぐ形が望ましい。引き続き、3歳未満児の保育事業の展開を働きかけていく。

子どもの育ちと働く女性を地域で応援しよう

日向美砂子議員(生ネ) ①妊娠や育児休業中の保護者の地域での仲間づくりをどのように支援しているか。

②今後の保育施策のために、女性の立場からの職場状況について調査が必要ではないか。



▶ハローベビークラスの様子

市長 ①子ども広場等での事業やハローベビークラスを通じて仲間づくりにつなげている。

②新制度における認定申請等に際して、一部において雇用形態等を把握しているが、内容の分析までは行っていない。

保育園における保育の質の向上と建設時の対応について

竹井ようこ議員(フオ) ①保育園の急な増加に伴う質の低下はあつてはならないが対応策は。

②保育園新設時に近隣住民への説明会等を行っているか。

市長 ①委託費請求時等に基準を満たす状況を確認し、必要な指導を行っている。引き続き保育士への研修等を実施し、保育の質の維持、向上に努めていく。

②事業者が実施する個別訪問や説明会の開催を通して、保育園の新設や工事の実施に対する理解を得られるよう努めている。

あらゆる子どもの人権を守るために

平野ひろみ議員(生ネ) ①青少年センター廃止に伴う子どもや若者の居場所づくりの考えは。

②子どもの権利を救済する第三者機関として子どもオンブズパーソン制度が必要ではないか。

市長 ①廃止を機に、市が重点的に取り組むべき課題を、困難を抱えた青少年の支援と捉え、問題解決を図る対応が必要であると認識している。

②市の要保護児童対策地域協議会が子どもの救済のため有効に機能していると認識している。導人は考えていない。

小平市の保育料と保育をめぐる諸課題について

木村まゆみ議員(共産) ①保育料改定による収入増を子どもたちに還元すべきだが、どうか。

②認証保育所利用者への補助金の給付は実効性のあるものに改善すべきだが、どうか。

市長 ①今回の改定では、利用者負担の適正化を図るとともに負担の公平性を高め、激変緩和への経過措置も設けているため、直接的なものはない。

②現在、所得区分に応じた補助を実施しているが、認可保育園との保育料の差を縮小することは、今後も研究していく。

保育施設利用のための現状と課題について

磯山 亮議員(政和) ①保育実施基準表の改定における検討内容及び利用者へのメリットは。

②育児休業明けの世帯への支援、多子世帯支援等の観点から実施基準表を見直しはどうか。

市長 ①新制度における保育の必要性の事由等の内容に沿うよう検討した。内容を細分化することで、審査の標準化が図られ、公平性が高まったと考えている。

②現行の基準表で配慮しており見直しは考えていないが、実務では丁寧な確認を行っている。